

HP Operations Orchestration CP17 (9.x)

Windows および Linux オペレーティングシステム

00 17 コンテンツパックバージョン(9.x)

リリースノート

ドキュメントリリース日:2015 年 2 月
ソフトウェアリリース日:2015 年 2 月



ご注意

保証

HP製品、またはサービスの保証は、当該製品、およびサービスに付随する明示的な保証文によってのみ規定されるものとします。ここでの記載は、追加保証を提供するものではありません。ここに含まれる技術的、編集上の誤り、または欠如について、HPはいかなる責任も負いません。

ここに記載する情報は、予告なしに変更されることがあります。

権利の制限

機密性のあるコンピューターソフトウェアです。これらを所有、使用、または複製するには、HPからの有効な使用許諾が必要です。商用コンピューターソフトウェア、コンピューターソフトウェアに関する文書類、および商用アイテムの技術データは、FAR12.211および12.212の規定に従い、ベンダーの標準商用ライセンスに基づいて米国政府に使用許諾が付与されます。

著作権について

© Copyright 2015 Hewlett-Packard Development Company, L.P.

商標について

Adobe™ は、Adobe Systems Incorporated (アドビシステムズ社) の登録商標です。

Microsoft® およびWindows® は、米国におけるMicrosoft Corporationの登録商標です。

UNIX® は、The Open Group の登録商標です。

本製品には、'zlib' (汎用圧縮ライブラリ) のインタフェースが含まれています。'zlib': Copyright © 1995-2002 Jean-loup Gailly and Mark Adler.

ドキュメントの更新情報

このマニュアルの表紙には、以下の識別情報が記載されています。

- ソフトウェアバージョンの番号は、ソフトウェアのバージョンを示します。
- ドキュメントリリース日は、ドキュメントが更新されるたびに変更されます。
- ソフトウェアリリース日は、このバージョンのソフトウェアのリリース期日を表します。

更新状況、およびご使用のドキュメントが最新版かどうかは、次のサイトで確認できます。

<https://softwaresupport.hp.com>

このサイトを利用するには、HP Passportへの登録とサインインが必要です。HP Passport IDの登録は、次のWebサイトから行なうことができます。 <https://hpp12.passport.hp.com/hppcf/createuser.do>

もしくは、「HP ソフトウェアサポート」ページの一番上にある[新規登録]リンクをクリックします。

適切な製品サポートサービスをお申し込みいただいたお客様は、更新版または最新版をご入手いただけます。詳細は、HPの営業担当にお問い合わせください。

サポート

HPソフトウェアサポートオンラインWebサイトを参照してください。 <https://softwaresupport.hp.com>

このサイトでは、HPのお客様窓口のほか、HPソフトウェアが提供する製品、サービス、およびサポートに関する詳細情報をご覧いただけます。

HPソフトウェアオンラインではセルフソルブ機能を提供しています。お客様のビジネスを管理するのに必要な対話型の技術サポートツールに、素早く効率的にアクセスできます。HPソフトウェアサポートのWebサイトでは、次のようなことができます。

- 関心のあるナレッジドキュメントの検索
- サポートケースの登録とエンハンスメント要求のトラッキング
- ソフトウェアパッチのダウンロード
- サポート契約の管理
- HPサポート窓口の検索
- 利用可能なサービスに関する情報の閲覧
- 他のソフトウェアカスタマーとの意見交換
- ソフトウェアトレーニングの検索と登録

一部のサポートを除き、サポートのご利用には、HP Passportユーザーとしてご登録の上、サインインしていただく必要があります。また、多くのサポートのご利用には、サポート契約が必要です。HP Passport IDを登録するには、次のWebサイトにアクセスしてください。

<https://hpp12.passport.hp.com/hppcf/createuser.do>

アクセスレベルの詳細については、次のWebサイトをご覧ください。

<https://softwaresupport.hp.com/web/softwaresupport/access-levels>

HP Software Solutions Nowは、HPSWのソリューションと統合に関するポータルWebサイトです。このサイトでは、お客様のビジネスニーズを満たすHP製品ソリューションを検索したり、HP製品間の統合に関する詳細なリストやITILプロセスのリストを閲覧することができます。このサイトのURLは

<http://h20230.www2.hp.com/sc/solutions/index.jsp>です。

目次

概要	5
CP17 の新機能	5
サポートされているバージョン	5
00 Content Pack 17 のドキュメント	5
00 Content Pack 17 のインストール	6
HP Live Network での 00 リリースとドキュメントのダウンロード	7
手動での 00 Content Pack 17 のインストール	8
ローカル Central Server への 00 Content Pack 17 のインストール	9
Windows	9
Linux	11
リモート Central Server への 00 Content Pack 17 のインストール	12
Windows	12
Linux	12
00 Content Pack 17 のアンインストール	14
コンテンツパックフォルダーのバックアップ	14
インストールのロールバック	14
修正された不具合	16
CP17.0001 の修正された不具合	16
CP17 の修正された不具合	16

概要

本ドキュメントでは、HP Operations Orchestration Content Packs 17 および 17.0001 (9.x) で行われた変更の概要について説明します。マニュアルやオンラインヘルプに記載されていない重要な情報が含まれています。

これらは英語版と日本語版のリリースです。

HP 00 コンテンツパックは累積的です。リポジトリと RAS が更新されます。この更新でオペレーションやフローが削除されることはありません。パッチで行われるのは、特定のコンテンツの場所の追加、修正、変更だけです。

CP17 の新機能

サポートされているバージョン

次の統合バージョンのサポートが追加されました。

- Network Node Manager 10.01
- Operations Manager i 10.00
- SiteScope 11.30 (Premium および Ultimate エディション)

00 Content Pack 17 のドキュメント

00 Content Pack 17 のドキュメントセットには、次のドキュメントが含まれます。

- HP Operations Orchestration Integration Support Matrix
- HP Operations Orchestration Operations and Flows

00 Content Pack 17 のインストール

00 Content Pack 17 は、既存の 00 プラットフォームバージョン 9.01.01 またはそれ以降にインストールすることを推奨します。

00 Content Pack 17 は、既存の Content Pack 14 コンテンツインストール上にインストールできます。プラットフォーム 9.00 と、次の表に記されているパッチを使用してください。

コンテンツ	パッチレベル
00 Content Pack 17	9.00.01
00 Content Pack 17	9.05.0001
00 Content Pack 17	9.07
00 Content Pack 17	9.07.0005
00 Content Pack 17	9.07.0006
00 Content Pack 17	9.07.0007
00 Content Pack 17	9.07.0008
00 Content Pack 17	9.07.0009

コンテンツパックを適用する前に、すべてのコンテンツをチェックインします。

既存の 00 9.00 バージョンの上から 00 Content Pack 17 をインストールした後で、00 9.00 を再インストールした場合は、00 Content Pack 17 も再インストールする必要があります。

HP Live Network での 00 リリースとドキュメントのダウンロード

HP Live Network にある Operations Orchestration コミュニティページでは、サポートされるリリースの 00 と関連ドキュメントを検索してダウンロードできます。

注: コミュニティページを利用するには、HP Passport に登録してサインインする必要があります。

HP Passport ID に登録するには:

次のサイトにアクセスします: <http://h20229.www2.hp.com/passport-registration.html>

または

HP Passport のログインページの **[New users - please register]** リンクをクリックします。

00 のリリースとドキュメントをダウンロードするには:

1. HPLN サイト: <https://hpln.hp.com/> にアクセスします。HP Live Network の 1 ページ目が開きます。
2. ページ下部の **[2]** をクリックして、2 ページ目に移動します。
3. **[Operations Orchestration]** の下の **[Content]** をクリックします。



Operations Orchestration

[Announcements](#) | [Forum](#) | **[Content](#)**

Optimize operational cost and
Improve service quality by
enabling end-to-end IT
Process Automation

4. **[Content Catalog]** タブを選択します。

5. **[Contents]** のリストから **[HP 00 9.x Content]** を選択します。

注: 列の上部にある **[Search]** および **[Filter]** ボタンを使用すると、表示されるコンテンツパッケージを少なくすることができます。

6. 大きい **[Download]** ボタンをクリックします。
ダウンロード可能なファイルのリストが表示されます。
7. **[Download]** をクリックしてすべてのファイルをダウンロードするか、またはダウンロードしたい **jar** および **PDF** ファイルを選択してから **[Download]** をクリックします。

手動での 00 Content Pack 17 のインストール

00 Content Pack 17 をインストールするには、Java 6 を使用する必要があります。00 に付属する Java JRE (<00 ホーム>/jre1.6 フォルダ) を使用することをお勧めします。

00 Content Pack 17 を手動でインストールする場合、次のことができます。

- [ローカル Central Server にインストールする](#)
- [リモート Central Server にインストールする](#)

ローカル Central Server への 00 Content Pack 17 のインストール

Windows

1. Studio を終了し、Central と RAS が稼働していることを確認します。これには、RSCentral と RSJRAS の各サービスのステータスを確認します。
2. 「[HP Live Network での 00 リリースとドキュメントのダウンロード](#)」(7ページ)の手順に従って、00 Content Pack 17(9.x)のインストーラー **00_Content_Pack_17_Installer.jar** をダウンロードし、一時ディレクトリにコピーします。
3. **[スタート]**メニューをクリックし、**[ファイル名を指定して実行]**をクリックします。
4. **[ファイル名を指定して実行]**ダイアログボックスで、「cmd」と入力して**[OK]**をクリックします。
5. **JVM** ディレクトリ内の **bin** サブディレクトリが PATH 環境変数に追加されていることを確認します。

コマンドウィンドウで、カレントディレクトリを一時ディレクトリに変更して次のように入力します。

```
java -jar 00_Content_Pack_17_Installer.jar -centralPassword <Central のパスワード> -locale ja
```

6. 00 デプロイメント環境内にあるすべての RAS 上で RAS サービスを再起動します。

注:

- Windows 2008 および Windows 2008 R2 サーバーで 00 Content Pack 17 をインストールする際は、管理者権限が必要となります。管理者権限は以下の手順で取得できます。
 - a. **[スタート]**メニューから、**[すべてのプログラム]**、**[アクセサリ]**の順に選択します。
 - b. **[コマンド プロンプト]**を右クリックし、**[管理者として実行]**オプションを選択します。
- Central のユーザー名にデフォルトの admin 以外を使用している場合は、上記手順のステップ 5 のコマンドで、**-centralUsername** パラメーターを使用して次のように入力します。

```
java -jar 00_Content_Pack_17_Installer.jar -centralUsername <デフォルト以外の Central のユーザー名> -centralPassword <Central のパスワード> -locale ja
```

たとえば、次のように入力します。

```
java -jar 00_Content_Pack_17_Installer.jar -centralUsername sysadmin -centralPassword mypassword -locale ja
```

- デフォルトポートの **https://localhost:8443** 以外のポートで 00 Content Pack 17 をインストールする場合は、上記手順のステップ 5 で、**-centralURL** パラメーターを使用して次のように入力します。

```
java -jar 00_Content_Pack_17_Installer.jar - centralURL <デフォルト以外の Central の URL> -  
centralPassword <Central のパスワード> -locale ja
```

たとえば、次のように入力します。

```
java -jar 00_Content_Pack_17_Installer.jar - centralURL https://central_server1:8080 -centralPassword  
mypassword -locale ja
```

- オペレーションのバージョン間に競合があっても 00 Content Pack 17 をインストールする場合は、上記手順の**ステップ 5**のコマンドで、**-forceInstall** パラメーターを使用して次のように入力します。

```
java -jar 00_Content_Pack_17_Installer.jar - forceInstall -centralPassword <Central のパスワード> -locale  
ja
```

たとえば、次のように入力します。

```
java -jar 00_Content_Pack_17_Installer.jar - forceInstall -centralPassword mypassword -locale ja
```

Linux

1. Central と RAS が稼働していることを確認します。これには、RSCentral と RSJRAS の各サービスのステータスを確認します。
2. 「[HP Live Network](#) での [00 リリースとドキュメントのダウンロード](#)」(7ページ)の手順に従って、00 Content Pack 17 のインストーラー **00_Content_Pack_17_Installer.jar** をダウンロードし、一時ディレクトリにコピーします。
3. ターミナルを開きます。
4. **JVM** ディレクトリ内の **bin** サブディレクトリが PATH 環境変数に追加されていることを確認します。**cd** コマンドを使用して、カレントディレクトリを一時ディレクトリに変更して次のように入力します。

```
java -jar 00_Content_Pack_17_Installer.jar -centralPassword <Central のパスワード> -home <00 のインストール先フォルダーのパス> -locale ja
```

5. 00 デプロイメント環境内にあるすべての RAS 上で RAS サービスを再起動します。

注:

- Central のユーザー名にデフォルトの **admin** 以外を使用している場合は、上記手順のステップ 4 のコマンドで、**-centralUsername** パラメーターを使用して次のように入力します。

```
java -jar 00_Content_Pack_17_Installer.jar -centralUsername <デフォルト以外の Central のユーザー名> -centralPassword <Central のパスワード> -home <00 のインストール先フォルダーのパス> -locale ja
```

たとえば、次のように入力します。

```
java -jar 00_Content_Pack_17_Installer.jar -centralUsername sysadmin -centralPassword mypassword -home /root/00_HOME -locale ja
```

- デフォルトポートの **https://localhost:8443** 以外のポートで 00 Content Pack 17 をインストールする場合は、上記手順のステップ 4 で、**-centralURL** パラメーターを使用して次のように入力します。

```
java -jar 00_Content_Pack_17_Installer.jar -centralURL <デフォルト以外の Central の URL> -centralPassword <Central のパスワード> -home <00 のインストール先フォルダーのパス> -locale ja
```

たとえば、次のように入力します。

```
java -jar 00_Content_Pack_17_Installer.jar -centralURL https://central_server1:8080 -centralPassword mypassword -home /root/00_HOME -locale ja
```

- オペレーションのバージョンの間に競合があっても 00 Content Pack 17 をインストールする場合は、上記手順のステップ 4 のコマンドで、**-forceInstall** パラメーターを使用して次のように入力します。

```
java -jar 00_Content_Pack_17_Installer.jar -forceInstall -centralPassword<Central のパスワード> -home <00 のインストール先フォルダーのパス> -locale ja
```

たとえば、次のように入力します。

```
java -jar 00_Content_Pack_17_Installer.jar -forceInstall -centralPassword mypassword -home /root/00_
HOME -locale ja
```

リモート Central Server への 00 Content Pack 17 のインストール

ローカルにインストールされた Central が必要です。

Windows

1. Central と RAS が稼働していることを確認します。
2. 「[HP Live Network での 00 リリースとドキュメントのダウンロード](#)」(7ページ)の手順に従って、00 Content Pack 17 のインストーラー **00_Content_Pack_17_Installer.jar** をダウンロードし、一時ディレクトリにコピーします。
3. **[スタート]**メニューをクリックし、**[ファイル名を指定して実行]**をクリックします。
4. **[ファイル名を指定して実行]**ダイアログボックスで、「cmd」と入力して**[OK]**をクリックします。
5. **JVM** ディレクトリ内の **bin** サブディレクトリが PATH 環境変数に追加されていることを確認します。コマンドウィンドウで、カレントディレクトリを一時ディレクトリに変更して次のように入力します。

```
java -jar 00_Content_Pack_17_Installer.jar -centralURL <リモート Central の URL> -centralPassword
<Central のパスワード> -locale ja
```

6. リモート 00 デプロイメント環境内にあるすべての RAS 上で RAS サービスを再起動します。

- Windows 2008 および Windows 2008 R2 サーバーで 00 Content Pack 17 をインストールする際は、管理者権限が必要となります。管理者権限は以下の手順で取得できます。
 - a. **[スタート]**メニューから、**[すべてのプログラム]**、**[アクセサリ]**の順に選択します。
 - b. **[コマンド プロンプト]**を右クリックし、**[管理者として実行]**オプションを選択します。

Linux

1. Central と RAS が稼働していることを確認します。
2. 「[HP Live Network での 00 リリースとドキュメントのダウンロード](#)」(7ページ)の手順に従って、00 Content Pack 17 のインストーラー **00_Content_Pack_17_Installer.jar** をダウンロードし、一時ディレクトリにコピーします。
3. **ターミナル**を開きます。
4. **JVM** ディレクトリ内の **bin** サブディレクトリが PATH 環境変数に追加されていることを確認します。**cd** コマンドを使用して、カレントディレクトリを一時ディレクトリに変更して次のように

入力します。

```
java -jar 00_Content_Pack_17_Installer.jar -centralURL <リモート Central の URL> -centralPassword  
<Central のパスワード> -home <00 のインストール先フォルダーのパス> -locale ja
```

5. リモート 00 デプロイメント環境内にあるすべての RAS 上で RAS サービスを再起動します。

00 Content Pack 17 のアンインストール

00 には、インストールしたコンテンツパックをアンインストールするオプションが用意されていません。これは設計上の制限であり、Operations Orchestration バージョン 10 では解決されています。

インストールしたコンテンツパックをロールバックする唯一の方法は、コンテンツパックをインストールする前にバックアップを作成しておき、そのバックアップから 00 のフォルダー構造を復元することです。

コンテンツパックフォルダーのバックアップ

復元ポイントとして使用するバックアップを作成するには、次の手順を実行します。

1. `<OO_INSTALLATION_DIR>\Central\rcrepo` フォルダーをバックアップします。
2. `<OO_INSTALLATION_DIR>\RAS\Java\Default\repository` フォルダーをバックアップします。
3. **RSCentral** および **RSJRAS** サービスを停止します。

インストールのロールバック

コンテンツパックをインストールした後で、インストールをロールバックする必要がある場合は、次の手順を実行します。

1. コンテンツパックのインストール後に変更または作成したフロー（存在する場合）をリポジトリにエクスポートします。リポジトリのインポートの詳細については、『HP 00 Studio オーサリングガイド』の「リポジトリのインポート」を参照してください。
2. **Central** および **RAS** サービスを停止します。
3. 「[コンテンツパックフォルダーのバックアップ](#)」(14ページ)のステップで作成したバックアップ場所からファイルを復元します。
4. サービスを再起動します。
5. 上記のステップで作成したリポジトリをインポートします。

注: リポジトリをインポートした後で、復元したフローのうち、アンインストールしたコンテンツパックのオペレーションを使用して作成されたものが無効と表示されることがあります。これは、コンテンツパックが初期設定の 00 オペレーションを更新して、新しい入力やレスポンスを

追加しているためです。ステップ 3 で Central リポジトリを復元するときに、これらの入力は失われます。

修正された不具合

次の項目は、現在のソフトウェアリリースで修正済みです。修正された不具合の参照番号は、ALM 不具合 (QCCR) ID です。

修正された不具合の詳細については、「HP ソフトウェアサポートオンライン」を参照するか、HP サポート担当者まで直接お問い合わせください。

CP17.0001 の修正された不具合

CR 番号	タイトル	説明
QCCR8C27066	セキュリティの問題	

CP17 の修正された不具合

CR 番号	タイトル	説明
QCCR8C24500	9 台を超えるデバイスが接続されているときに「VM のすべてのハードディスクの取得」オペレーションが誤ったデータを返す	9 台を超えるデバイスが接続されている場合に、「/統合/VMWare/VMware 仮想インフラストラクチャーおよび vSphere/仮想マシン/構成」の下で「VM のすべてのハードディスクの取得」オペレーションを使用したときに、「ディスク数」と「名前」が正しく解釈され、正しいデータが返されるようになりました。
QCCR8C24833	パスワードに &、<、> のいずれかの文字が含まれている場合に VMWare オペレーションが接続できない	パスワードに次のいずれかの文字が含まれている場合でも、VMware オペレーションが正しく実行されるようになりました。 !@# \$ % ^ & * () < > ?
QCCR8C25511	00 9.x - SQL クエリを使用する 2 つのフローを同時に実行すると、最初のフローの区切り文字が 2 番	00 9.x で、「/ライブラリ/オペレーション/データベース/MSSQL/」の下で、同じオペレーション「SQL Query」を使用する 2 つのフローを同時に実行し (スケジュール指定またはガイ

CR 番号	タイトル	説明
	目のフローの区切り文字に変更される	ド付き)、それらが異なる区切り文字を使用する場合、最初のフローの最初のクエリは正しい区切り文字で実行されますが、2番目のフローが開始されると、最初のフローの最後のクエリが2番目のフローの区切り文字を使用します。 この問題は現在修正済みです。
QCCR8C26480	ログイン資格情報を「フローのスケジュール」オペレーションで使用するとエラーが発生する	「/ライブラリ/統合/Hewlett-Packard/Operations Orchestration/スケジュール/」の下の「 フローのスケジュール 」オペレーションが、ログイン資格情報を username および password 入力として使用して、正常に実行されるようになりました。
QCCR8C26614	HTTP クライアントアプリケーションで、NTLM 認証を使用し、ドメインを指定しないと、Null ポインター例外がスローされる	HTTP 要求を作成する前に、オペレーションが (username 入力または domain 入力から) NTLM 認証が設定されているかどうかと、ドメインが存在するかどうかを確認します。
QCCR8C26616	InvokeMethodV2 が、有効化された SSL プロトコルの構成を許可しない	InvokeMethodV2 は、POODLE 脆弱性に対処するため、TLS 1.0 の下でセキュアトランスポートレイヤープロトコルを許可しないようにする必要があります。この場合、 InvokeMethodV2 は、ターゲットサーバーでサポートされる TLS 1.0 以上のプロトコルを使用するように構成されます。
QCCR8C26704	Continuous Delivery Automation 用の「サーバーの作成」オペレーションが実行時に設定されたドメインを使用しない	「/ライブラリ/統合/Hewlett-Packard/Continuous Delivery Automation/インフラストラクチャー/サーバー/」の CDA の「 サーバーの作成 」オペレーションが、「/ライブラリ/統合/Hewlett-Packard/Continuous Delivery Automation/ドメイン/」の下の「 作業ドメインの設定 」オペレーションによって設定されたドメイン上にサーバーを保存しませんでした。 この問題は修正され、「 サーバーの作成 」オペレーションが実行時に設定された現在の作業ドメインを正しく受け取るようになりました。

CR 番号	タイトル	説明
QCCR8C26794	仮想マシンの「構成パラメーター」行を指定するオペレーションの追加	<p>VMWare 統合のデフォルトのオペレーションでは、VM 用の新しい行の追加は許可されません。</p> <p>「/ライブラリ/統合/VMWare/VMware 仮想インフラストラクチャーおよび vSphere/仮想マシン/構成/」の下の OOTB の「VM 設定の編集」オペレーションが強化され、仮想マシン用の新しい構成パラメーターの追加をサポートするようになりました。</p> <p>これにより、VMWare 統合のデフォルトのオペレーションが VM 用の新しい行の追加を許可しない問題が解決されました。</p>
QCCR8C26880	Amazon EC2 の「インスタンスの実行」オペレーションに "userData" の入力がない	<p>新しい入力 userData が、「/ライブラリ/統合/Amazon/EC2/インスタンス/」の下の「インスタンスの実行」オペレーションに追加されました。この入力の使用方法とその形式の詳細については、Amazon EC2 のドキュメント (http://docs.aws.amazon.com/AWSEC2/latest/UserGuide/ec2-instancemetadata.html) を参照してください。</p>

